

## 設樂國廣先生の略歴と主要業績

設樂國廣先生は立教大学文学部史学科・文学研究科史学専攻の教授として約二〇年もの間、近代トルコ政治史に関する研究に従事し、また学生の指導にあたってこられました。二〇〇九年三月三十一日をもって定年退職されました。以下にその略歴と主要業績を紹介し、立教大学史学会に対する長年にわたるご貢献へのささやかな感謝のしるししたいと思います。

### 【略歴】

- 一九六七年三月 千葉大学文理学部人文科学課程史学専攻卒業
- 一九六七年四月 東京教育大学文学研究科修士課程東洋史学専攻入学
- 一九六八年～七一年 トルコ共和国アンカラ大学言語地理歴史学部留学
- 一九七三年三月 東京教育大学文学研究科修士課程東洋史学専攻修了
- 一九七七年～九二年 東京都公立高等学校教諭
- 一九九二年四月 立教大学文学部助教授
- 一九九七年四月 立教大学文学部教授
- 二〇〇二年～〇四年 立教大学史学会会長
- 二〇〇三年～〇五年 立教大学大学院文学研究科史学専攻主任
- 二〇〇三年～現在 財団法人東洋文庫研究員
- 二〇〇六年四月 立教大学文学部史学科超域文化学専修教授
- 二〇〇七年～〇九年 立教大学文学部史学科超域文化学専修専修主任

【単著】

一九七六年 『Modern West Asia and North Africa』, Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect, 1963-1972, pt. II-27, Centre for East Asian Cultural Studies, Tokyo, 1976.

二〇〇七年 『オスマン朝における近代化』(平成13年度〜平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書)

【訳書】

一九八一年 N・アクシント『トルコ(世界の教科書Ⅱ歴史)』二、ほるぷ出版(共訳)

一九九一年 ウムット・アルク『トルコ―星と三日月の国―』NTTメディアスコープ(共訳)

二〇〇七年 ロナルド・シーガル『イスラームの黒人奴隷―もう一つのブラック・デアスポラー』明石書店(監訳)

【論文】

一九七六年 「青年トルコ人 運動の展開をめぐって」『イスラム世界』一一号

一九七八年 「青年トルコ人革命前夜―レスネのニヤーズイ蜂起の歴史的意義―」『オリエント』二二巻一号

「青年トルコ人の名称について」『月刊シルクルード』四巻四号

一九七九年 「第二次立憲体制成立直後の状況―青年トルコ人革命の内部抗争―」『イスラム世界』一六号

一九八一年 「青年トルコ人とオスマン朝軍―将校の出自に関する問題を中心に―」中嶋敏先生古稀記念事業会記念論集編集委員会編『中嶋敏先生古稀記念論集』下、汲古書院

一九八三年 「行動軍の指導理念の変化」護雅夫編『内陸アジア・西アジアの社会と文化』山川出版社

一九八五年 「現代のトルコ―イスラムと世俗主義―」森本公誠編『講座イスラム』二、筑摩書房

一九八六年 「オスマン帝国におけるイスラムと民衆―青年トルコ人革命期を中心として―」『史潮』新一八号  
「3・31事件における宗教運動」護雅夫編『イスラム圏における宗教運動に関する総合的研究』

「青年トルコ人革命」前嶋信次ほか編『オリエント史講座』六、学生社

設樂國廣先生の略歴と主要業績

- 一九八八年 「アブデュル・ハミド2世の専制政治構造」『日本中東学会年報』三卷一号
- 一九九一年 「アンカラの変容 — 共和国への道に—」『イスラムの都市性・研究報告 研究報告編』一一一号
- 「アナトリア諸都市とマグリブ、トルキスタンの諸都市との比較」清水宏祐編『イスラム都市における街区の実態と民衆組織に関する比較研究』
- 一九九二年 「統一と進歩委員会の系譜」『オリエント』三五卷一号
- 一九九四年 「ムスタファアークケマルパシャとアンカラ」寺阪昭信編『イスラム都市の変容 — アンカラの都市発達と地域構造—』古今書院
- 一九九六年 「オスマン帝国末期のユダヤ教徒問題」『史苑』五六卷一号
- 一九九七年 「オスマン帝国における宗教諸宗派」『歴史と地理』五〇一号
- 一九九九年 「トルコ（オスマン帝国）と東南アジア — いかに東南アジアは理解されるか—」『東南アジア地域の他地域との人的、経済的、文化的関連に関する調査研究』（国際交流促進に関する調査研究 10—5）財団法人産業研究所
- 二〇〇〇年 「青年トルコ人の国外活動資金問題」『西南アジア研究』五二二号
- 二〇〇二年 「Yön Türklerin Menleket Dışındaki Faaliyeti」XIII. Türk Tarih Kongresi (Ankara 4-8 Ekim 1999) Kongreye Sunulan Bildiriler Ankara 2002.
- 二〇〇四年 「Tithat ve Terakki Cemiyeti'nin Kuruluşu」CIEPO Osmanlı Öncesi ve Osmanlı Araştırmaları Uluslararası Komitesi XIV. Sempozyumunu Bildirileri (18-22 Eylül 2000 Çeşme) Ankara 2004.
- 「第二次立憲体制期の政治動向」『史苑』六五卷一号
- 二〇〇八年 「キプロスとトルコのEU加盟問題」『世界史の研究』二一五号

【書評・新刊紹介】

- 一九七五年 「テウファイキ・チャウダル著「オスマン帝国の半植民地化」」『イスラム世界』一〇号

- 一九七七年 「立田洋司著『古代アナトリアの遺産』、『史学雑誌』八六卷九号
- 一九八五年 「東洋文庫中央アジア・イスラム研究委員会編『東洋文庫所蔵トルコ語・オスマン語文献目録(増補改訂版)』、『史学雑誌』九四卷一二号
- 一九九九年 「イラン近代の原像——英雄サッタール・ハーンの革命」八尾師誠著『イスラム世界』五二二号
- 二〇〇五年 「小松久男・小杉泰編『現代イスラーム思想と政治運動』、『イスラム世界』六五号

【その他】

- 一九七五年 「西アジア・北アフリカ(一九七四年の歴史学界―回顧と展望)」、『史学雑誌』八四卷五号
- 一九七八年 「青年トルコ人運動における3・31事件について」、『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』三二二号
- 一九八〇年 「西アジア・北アフリカ(一九七九年の歴史学界―回顧と展望)」、『史学雑誌』八九卷五号
- 一九八六年 「近代イスラム世界の危機問題」、『史潮』新一九号
- 一九九二年 「ロシアの南下政策」、『歴史読本ワールド』二卷七号
- 一九九五年 「立教大学文学部史学科(イスラーム関係講座紹介)」、『イスラム世界』四五号
- 一九九七年 「アルバニア雑感」、『イスラム世界』四九号
- 一九九八年 「バルカン半島とイスラム」、『中東研究』四四三号
- 二〇〇〇年 「コソボ問題とトルコ」、『史苑』六〇卷一号
- 二〇〇二年 「オスマン帝国からトルコ共和国」、『史友』三四号
- 二〇〇七年 「学会動向 トルコ歴史会議」、『イスラム世界』六八号
- 二〇〇八年 「アンカラ概略史」、『史苑』六八卷二号  
「イスラムとトルコ」、『別冊環』一四号
- 二〇〇九年 「私の大学院生時代」、『史苑』六九卷合併号